

# 糖尿病性腎症に関する合同委員会報告

糖尿病性腎症合同委員会が平成12年5月21日，10月21日，平成13年5月28日に開催され，厚生省平成3年度糖尿病性腎症調査研究班報告書の糖尿病性腎症病期分類が別表のように改定された。

日本腎臓学会委員：黒川 清，荒川正昭，堺 秀人，富野康日己，槇野博史  
日本糖尿病学会委員：赤沼安夫，磯貝 庄，金沢康徳，吉川隆一，矢島義忠

糖尿病性腎症病期分類（改定）

病期	臨床的特徴		病理学的特徴 (糸球体病変)	備考 (主な治療法)
	尿蛋白 (アルブミン)	GFR(Ccr)		
第1期 (腎症前期)	正常	正常 時に高値	びまん性病変：ない～軽度	血糖コントロール
第2期 (早期腎症)	微量アルブミン尿	正常 時に高値	びまん性病変：軽度～中程度 結節性病変：時に存在	厳格な血糖コントロール 降圧治療
第3期A (顕性腎症前期)	持続性蛋白尿	ほぼ正常	びまん性病変：中程度 結節性病変：多くは存在	厳格な血糖コントロール 降圧治療・蛋白制限食
第3期B (顕性腎症後期)	持続性蛋白尿	低下	びまん性病変：高度 結節性病変：多くは存在	厳格な降圧治療 蛋白制限食
第4期 (腎不全期)	持続性蛋白尿	著明低下 (血清クレアチニン上昇)	荒廃糸球体	厳格な降圧治療 低蛋白食・透析療法導入
第5期 (透析療法)	透析療法中			移植

降圧治療については「高血圧治療ガイドライン（日本高血圧学会）」を参照のこと。

■：改定部分